

## V 富山大学入学を希望する発達障害生徒への移行支援 (入学前)

### V-1. 移行支援（入学前）におけるアクション・リサーチ

富山大学に入学希望の発達障害生徒に対する移行支援においてアクション・リサーチを行い、入学直前までの発達障害生徒の支援ニーズと移行支援の在り方について探った。

### V-2. 調査結果

#### <移行支援スケジュール>

2009年7月後半～8月前半：オープンキャンパス

2010年2月後半：入試特別配慮の確認

2010年1月～3月半ば：支援窓口パンフ配布

2010年3月半ば：支援部門スタッフの紹介

2010年3月後半：初回アセスメント

#### <移行支援の内容>

①入学前の学内支援部門（トータルコミュニケーション支援室）の紹介。

※対象学生及び保護者と支援部門スタッフが面談形式で顔合わせをした。

②対象学生及び保護者から、聞き取りによるアセスメントを行い、今後の支援内容のすり合わせと個人情報の共有範囲を確認した。

③入学直前から直後の修学スケジュールの確認と各行事における支援ニーズの確認。  
(オリエンテーションにおける配慮事項の確認)

### V-3. 考察

アクション・リサーチの結果から、以下のような実態及び支援ニーズが明らかになった。

#### <実態と支援ニーズ>

事前の広報については、県内高校での講演会やプレス発表の結果、高校教職員、保護者から入試以前の早い段階で支援についての問い合わせがあるなど、高校現場や保護者の関心の高まりもあり、一定の効果があることが分かった。

また、面談と行動観察によるアセスメントを行う中で、今回のように既に診断を受けていて修学支援の要請がある場合でも、発達障害生徒自身は障害特性や支援ニーズをよく理

解していないことが多く、支援や配慮を受けることに対する迷いや自立心との葛藤により、保護者と本人の支援ニーズが食い違うことが多くあった。よって支援者は本人の意思を尊重しつつもアセスメントから分かった障害特性について本人に体験を通して自覚を促すことにより支援ニーズを共有していく必要があった。

また、出身高校からの情報（本人、保護者から了承を得て連絡）は、ストレスによる影響の現れ方や対人関係の持ち方など、大学における初期段階の支援では分かりにくい要素や、長期的な支援ニーズを把握する上で非常に重要であった。

その他、入学前のオリエンテーションは、大学生活のための大切な準備であり、また実質的な学生生活のスタートでもある。また、そこで大量の学生に一斉に提供される修学に関する情報は非常に重要である。しかし、富山大学では2日に渡り午前9時～午後5時ごろまでかかるオリエンテーションは新しい環境に弱い発達障害生徒にとっては負荷の高い行事でもあり、事前に十分に聞き取りを行い、苦手な状況などを確認しておくことが必要である。また、聞きながらメモを取ることの困難さや新しい環境に対する混乱などにより、提供される修学情報の多くが抜け落ちる可能性もあり、振り返りによる要点整理と情報の補填は重要な支援であることが分かった。